

大腸がん検診を受けませんか？

大腸がんって・・・

大腸とは、小腸と肛門の間にある1.5～2mほどの臓器で結腸と直腸に分けられます。主に小腸から流入した液状の便から、水分・脂肪酸の一部・ナトリウムなどを吸収し、固形の便にする働きがあります。この大腸にできる腫瘍が大腸がんで、周囲の組織に浸潤や転移を起こすこともあり、良性腫瘍（ポリープ等）とは区別されます。

こんな症状ありませんか？

大腸がんになると、早期のものではほとんど症状は現れません。しかし、進行すると下血・血便や、下痢・便秘・便が細くなるなどの便通異常の他、貧血や腹痛・腹部膨満などの症状が現れることがあります。このような症状がある場合、すぐに病院に相談しましょう。

部位別累積5年生存率



大腸癌研究会・全国登録2000～2004年症例
ステージ分類は「大腸癌取り扱い規約」第6版による

Copyright © National Cancer Center All Rights Reserved.

**大腸がんは、早く見つければ
完治・寛解を目指せる病気です**

症状がない場合の検査って？

大腸がんは早期のものではほとんど症状はありません。ですが、症状のない人からがんの可能性のある人を拾い上げる検診法として便潜血検査があります。

大腸がん検診(便潜血検査)

便の中に混じった血液を検出する検査です。便を提出するだけなので、大腸カメラや注腸造影検査に比べストレスは小さく済みます。

「有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドライン」において死亡率減少効果を示す十分な証拠があることから、大腸がん検診として強く推奨されています。

札幌市では、40歳以上の方を対象に年1回の検査を勧めています。

札幌市の大腸がん検診

詳細は札幌市のホームページ

(右のQRコード)をご参照ください。



対象：札幌市在住の受診日に40歳以上の方

受診間隔：1年に1回受診

料金：400円

受診料金が免除になる方もいますので、
ホームページでご確認ください。

検診を希望される場合

現在、診療所・クリニックに通院されている方は、その通院されている医療機関にご相談ください。

多くの医療機関が「札幌市大腸がん検診」を行っております。

当院での検診の方法

当院通院中の患者さんは、簡単な手続きで札幌市大腸がん検診（便潜血検査）を行うことができます。

当院通院中（診察券のある）患者さん

札幌市在住、40歳以上、年1回 400円

（70歳以上、非課税世帯、生活保護受給者は無料ですので、受付時にご相談ください）

札幌市以外の方は札幌市の補助対象外ですので、1,000円かかります

当院受診歴のない方は受診登録が必要です

医事課にご相談ください（平日13:30～16:30）

1. 便検査容器と検査案内を1階ロビーに用意しております。ご自由にお持ち帰りください
2. 自宅にて2日間、検体採取を行ってください（採取方法は検査説明書でご確認ください）
3. 検体を採取した容器を持参され、1階窓口にて受付を行ってください（受付時間 平日 13:30～16:30）
4. 健康管理センターに容器を提出し、検診手続きを行ってください
5. お帰りの際に1階ロビーの自動精算機で検診料金をお支払いください
6. 検査結果は後日郵送で連絡いたします

便潜血陽性と診断されたら

便潜血陽性と診断されても、全員が大腸がんやその他の消化器疾患を罹患しているわけではありません。但し、何らかの病気に罹患している可能性もあり、大腸カメラ等で病気の有無を調べることになります。

診療所・クリニック・検診で便潜血陽性となり、当院での検査を希望される方

通院中の診療上・クリニックで、もしくは検診先で紹介状を書いていただき、当院地域連携室に内科受診の予約をお願いしてください。外来受診日時を予約した上での受診となります。紹介状がありますと消化器内科初診の方でも選定療養費(7,700円)はいただきません。

当院での検診で便潜血陽性となり

当院での検査を希望される方

当院地域連携室・二次検診（精密検査）予約専用電話 011-832-3828（平日 14:00～17:00）に連絡し、

「当院での便潜血検査で陽性となり、精密検査を希望する」旨をお伝えください。内科受診日を予約します。

内科受診日予約以降

- ・予約日時に内科（消化器内科）受診していただき、大腸カメラの検査日をご相談し決定します。
- ・大腸カメラは腸管を空にする必要がありますので、検査日の前日から下剤等の内服（前処置）を行います。従って、消化器内科の初回の受診の際には検査方法や前処置の説明と検査日時の決定を行いますので、実際の検査はその後日となります。

万一、大腸がんと診断されたら？

大腸カメラ等で大腸がんと診断された場合、さらに造影CT等の精密検査を行い、治療法を決定します。大腸がんの進行具合（臨床病期）により、内視鏡治療・手術・化学療法（抗がん剤）などの治療を内科医師・外科医師・本人・家族を含めて決定し、行っていきます。当院では、大腸がんに対して手術支援ロボット（ダヴィンチ）を用いた手術も行っています。大腸がんに対する手術は腹腔鏡手術が主流ですが、より精緻な手術が施行可能であり、現在、直腸がんを中心に行っていますが、今後結腸がんにも適応を広げていく方針です。

また、直腸癌に対しては、臨床病期によっては、放射線治療・化学療法を手術に先行して行い、腫瘍を小さくしてから手術を施行する方法も取り入れています。



当院ダヴィンチチーム(消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科、婦人科、看護部、臨床工学科)